



## 【号外】 山いき隊員だより (栗島隊員)



みさくぼの節分 ～バリバリとイワシで厄を払う！～

## ＜節分ってどういうもの？＞

節分は、「立春」の前日に当たります。2月3日になる場合が多いですが、今年うるう年ということもあり、実に**124年ぶり**に2月2日が節分に当たりました。

節分は、冬から春に季節が変わるこの時期に、邪気や悪いもの（いわゆる「鬼」）を落として、幸運を呼び込むことを目的に行われます。

節分の時には、「豆をまく」「トゲやにおいのある樹木の枝葉にイワシのアタマをさしたものを家に飾る（やいかがし）」などをして厄を払います。



## ＜みさくぼの節分＞

水窪では、他の地域と同様、「豆まき」や「やいかがし」を行います。やいかがしのやり方に特徴があります。通常、全国的には、ヒイラギの枝葉をイワシのアタマにさすのですが、水窪では、ヒイラギではなく「バリバリ」と呼ばれる枝葉を使います。バリバリは、一般的に「カヤ」と呼ばれる樹木のことで、地域の人に聞いてみたところ、バリバリを使う理由としては、葉がとがっていて触ると痛い、焼くとバリバリと音がして鬼が嫌がる、などが挙げられるようです。

ただ、バリバリは水窪の山で頻りに生えているようなものではなく、地域の方々からも、「知り合いにもらったり、もともと生えている場所を知っていたりしていないとなかなか手に入らない」といった声も聞こえます。

私が、節分の日には本町・大里地区を一回り歩いたところ、道沿いの目についたところだけではありますが、やいかがしをしている家は4、5軒程度でした。やいかがしをする家が少なくなったのには、バリバリの葉が手に入りやすくなったという理由もあるのでしょうか。

来年はもう少し詳しく調べてみたいと思います。

## 草木の豆ウラ

草木地区の民俗をまとめた資料によると、草木地区には「豆ウラ」という文化がある（あった？）そうです。豆ウラとは、節分の日、イロリのまわりに豆の12粒並べて焼いて、その焦げ具合で月々の天気を占うというもの。白くきれいに焼けると晴、黒く焦げると雨だとしていたそうです。

バリバリとイワシ



唐辛子つき



サンマで代用



## <周辺地域のやいかがし>

### ◀◀ 春野町のとある家

シキミ（香の木）の葉を煎ってイワシの頭に巻きます。これを、先端に切れ込みを入れたシキミの枝に挟んで仏壇や母屋、納屋の入口などに挿します。シキミの枝は、節分の日の夕飯で箸として使った後に、やいかがしの材料にするのがならわしだそうです。

### 引佐町のとある家▶▶

シキミの葉とイワシの頭を使う点は、上の春野町の例と同じですが、これらをクロモジの枝にさすという点が異なっています。クロモジは高級なつまようじに使われる香りが良い樹木です。左の写真ではミカンの皮も一緒にさしていますね。



### 「やいかがし」について、もっとくわしく！

節分の夜に、東京周辺の村々ではイワシの頭をヒラギの小枝にさして、家の入口にさしておく。これを静岡県・愛知県などではヤイカガシ、岩手県の盛岡市あたりではヤッカガシという。この風習は奥羽から中国地方におよび、九州の各地には日を異にして同じようなまじないをする所がある。串もヒラギのほかに、クロモジの木・大豆のから・竹・楊（ヤナギ）の箸・サンショウの枝などさまざまであり、さすものもイワシの頭・髪の毛・にんにく・ねぎ・らっきょうなどのように臭いもの、または焼いて臭気を発するものを用いる。

## <節分の風習いろいろ>

静岡県西部に「鬼オドシ」という風習があります。鬼オドシは、一般に長い竹竿の先に籠をかぶせ、これを庭先の一角に立てかけるものです。龍山では、カヤ・クロモジ・シキミを古ぞうりにしぼりつけ、その上に籠をかぶせて立てているそうです。右の写真は、カヤを籠の中に入れた佐久間地域の鬼オドシを実践されている様子です。

また、遠州三河地域周辺では、「ナタ餅」といって、節分の夜にナタ餅と称する一臼餅をつく風習があるそうです。水窪や周辺地域の知り合いの方々からは、ナタ餅の風習については、あまり聞けませんでした。



鬼オドシ

### 【参考・引用文献】

- ・草木の民俗（静岡県教育委員会：編集）
- ・静岡県の年中行事（富山 昭：文・写真）

- ・年中行事図説（民俗学研究所：編著）

※ 水窪以外の写真は、各地域の方々から提供していただいたものです。

## 【薄れゆく文化・伝承したい技術などの情報を求めています！】

私は、自身の活動として、「森林・林業のPR」「地域の伝統文化・技術・集落の情報の保存・継承」の2つに特に力を入れています（もちろん、他のお仕事の依頼も大歓迎です）。節分の風習をはじめ、いままで、「西浦田楽のわらじ作り」「しめ縄づくり」「伝統料理」「旧道歩き」等の取材を行ってきました。もし、地域の文化や伝統技術などで「文章化・映像化して残したい」「地域外の人にも知ってほしい」というものがありましたら、ご連絡いただけますと大変嬉しいです。

<連絡先> 栗島：080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▶▶ <https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/>

